

令和8年3月8日(日) 午前10時～11時

## かしわぎ 柏木遺跡 試掘・確認調査 現地説明会資料

山口市教育委員会文化財保護課

### 1. 陶地域における周防鋳銭司関連遺跡・伝承地の調査

山口市教育委員会では、令和5年に策定した『史跡周防鋳銭司跡保存活用計画』にもとづき、古代の官営の銭貨生産機関「周防鋳銭司」の実態解明のため、陶地域に分布する周防鋳銭司関連遺跡・伝承地の調査を行っています。(図1)。

### 2. 柏木遺跡とは

柏木遺跡は、過去の試掘調査で古代(平安時代)とみられる屋根瓦の破片などがみつかっています(平成8年、30年)。古代の山陽道の駅家<sup>※1</sup>で所在地が特定されていない八千駅(図2)、または未知の寺院に関わる遺跡である可能性が考えられています。

遺跡の立地は、陶・鋳銭司地域を東西に通る古代の山陽道(当時のルートは未詳)に近く、当時の海岸線にも近いと考えられることから、陸上・海上交通の要衝にあり、上記のほかに、周防鋳銭司で生産した銭貨を船で都に運ぶための港(津)に関わる施設があった可能性もあります。

柏木遺跡では、令和6年から2か年にわたって発掘調査を行っています。令和6年の調査では、古代(平安時代)の柱穴列や瓦、緑釉陶器、土師器などが発見され、柏木遺跡の様相を明らかにする上で、貴重な成果を得ることができました。

### 3. 調査期間

令和7年10月28日～令和8年3月下旬 ※一部は3月中旬に埋戻します。

### 4. 調査対象・方法

柏木遺跡(約54,480㎡)の範囲のうち、地形観察と過去の試掘結果から、遺構が見つかる可能性が高いと考えられる、周辺よりも一段高い微高地上を中心に調査しました(約11,567㎡)。

幅2m・長さ5m、幅2m・長さ10mを基本とする調査区(トレンチ)を計23本設定し、遺構・遺物の有無と内容を確認しました。調査面積は計約320㎡です。

調査地は発掘調査による地下の状況から、A～Eの5区に区分しています(図4)。

※1 駅家:古代日本の主要道路に沿って約16kmごとに設置された公的な中継施設。駅家には一定数の馬が置かれ、使者が馬を乗り継ぎながら、都と地方の情報伝達を行いました。『日本後紀』によると、山陽道の駅家は白壁で瓦葺きの建物だったとされています。

### 5. 調査所見

#### 【A区】(追加①～⑦、図5)

令和6年に確認した柱穴列の周辺を調査し、建物遺構となるかどうか確認しました。

- ・基本的な層序は上から順に、1層:耕作土、2層:盤土、3層:黒色整地土、4層:地山です。3層には古代よりも新しい時期の遺物は含まれません。

- ・ 3層上面に古代・中世の遺構、3層よりも下の地山面に古代の遺構があるとみられ、古代は大きく2時期あると考えられます。
- ・ 古代の遺構としては、Tr. 15 周辺において、建物 1 を検出しました。建物規模は東西 2 間 (4.8m)・南北 3 間 (7.2m) 以上で、柱穴規模は直径約 80cm です。建物北辺の北側 2.4m のところに直径約 50cm の柱穴 4・10・11 があり、建物 1 と柱筋が通ることから一連の建物になる可能性があります。これにより、Tr. 15 の柱穴列 (令和 6 年) が建物遺構となることが明らかとなりました。また、建物 1 の柱穴と重複する柱穴列 1 があることから、建物 1 と時期を前後する建物遺構が存在する可能性があります。
- ・ Tr. 14 周辺では、柱穴 2 の北側に柱穴が 3 個程度続くと推定されます。

#### 【D区】(Tr. 19～27)

- ・ 基本的な層序は 1 層：耕作土、2 層：盤土、4 層：地山です。Tr. 19～22 において、中世の柱穴や溝を検出しました。古代の遺構・遺物は見つかりませんでした。

#### 【E区】(Tr. 28～34)

- ・ 基本的な層序は 1 層：耕作土、2 層：盤土、3 層：遺物包含層、4 層：地山です。中・近世の柱穴や土坑がわずかに見られ、近・現代の粘土採り穴と考えられる落ち込みがあります。
- ・ 古代の遺構は見つかりませんが、Tr. 31・32 の遺物包含層で古代の土器がわずかに出土しました。また、Tr. 31 では古代瓦が数点出土しました。

## 6. 柏木遺跡における 2 か年の調査のまとめ

### (1) 全体的な様相 (図 4)

- ・ 柏木遺跡の範囲のうち、周辺よりも一段高い A 区に、古代の遺構・遺物が集中することが明らかになりました。
- ・ 中世や近世の遺構・遺物はすべての調査区で確認できます。

### (2) 古代

- ・ 建物遺構を 1 棟 (建物 1) 確認しました。遺構軸は真北から東に約 12° 振ります。
- ・ 建物 1 の柱穴と重複する柱穴があることから、建物 1 と時期を前後する建物や塀等の遺構が存在する可能性があります。
- ・ 建物 1 の東側と南側では、古代に整地 (3 層) が行われていると考えられます。
- ・ 出土遺物は土器器坏が多く、次いで須恵器坏などがあり、緑釉陶器や灰釉陶器が少量あります。瓦は平瓦が多く、丸瓦が少量出土しています。軒瓦は見つかりません。遺物の形態的特徴から、建物が機能した時期は 10 世紀頃と考えられます。古代の遺構に伴って瓦が出土することから、建物の屋根には瓦が使用されていたと考えられます。建物は掘立柱建物とみられますが、令和 6 年の調査で礎石状の石を確認しており、周辺に礎石建物が存在した可能性があります。

⇒ 柏木遺跡には古代に遡る遺構が存在する可能性が指摘されてきましたが、今回の調査で実際に古代の建物遺構が確認されました。依然として、駅家、寺院、周防鋳銭司に関わる施設のいずれかである可能性があることから、柏木遺跡がこういった性格の遺跡であるか特定することはできませんが、古代の陶地域を考える上で貴重な遺跡であることは間違いありません。

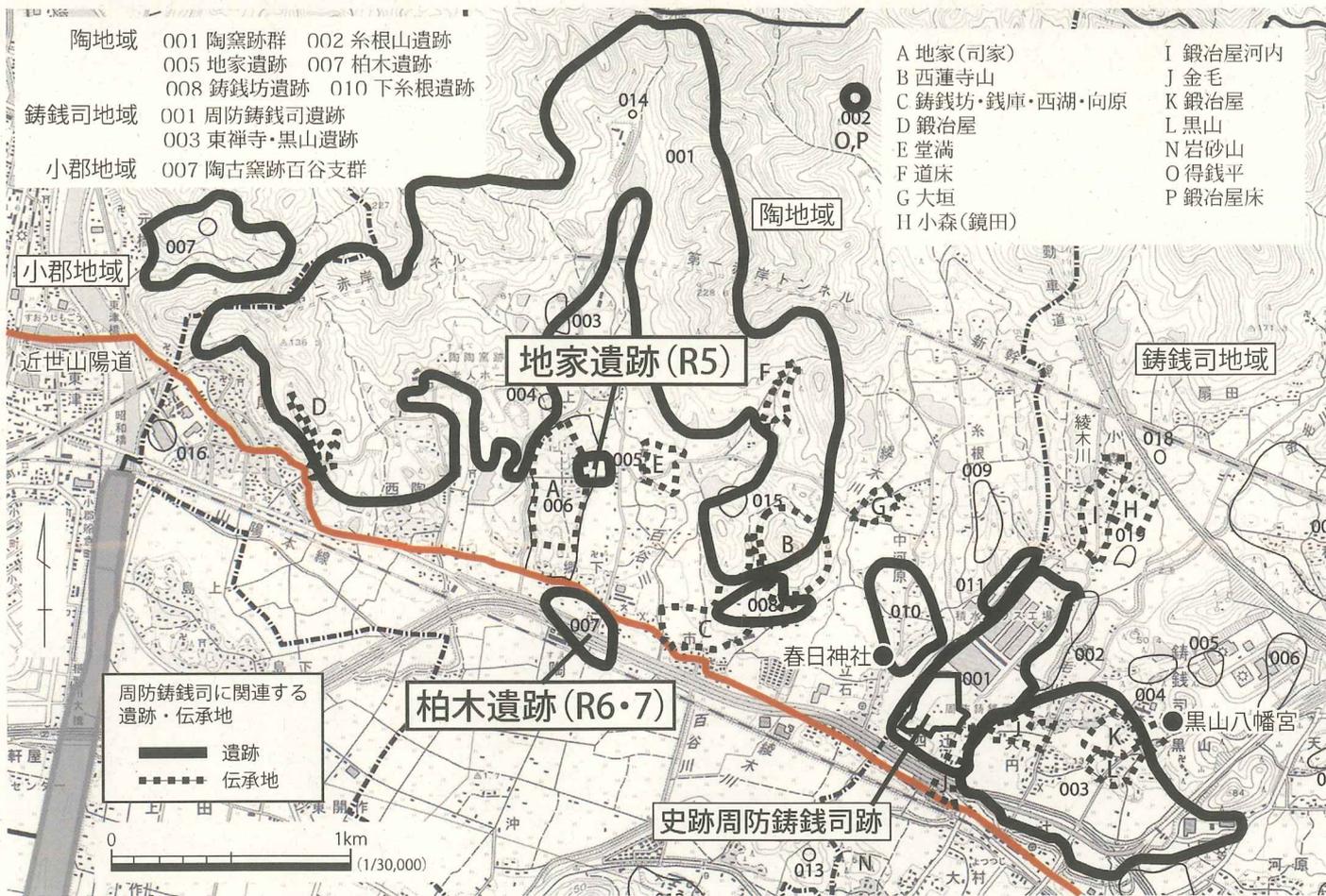


図1 陶地域における周防鑄銭司関連遺跡・伝承地の調査地点

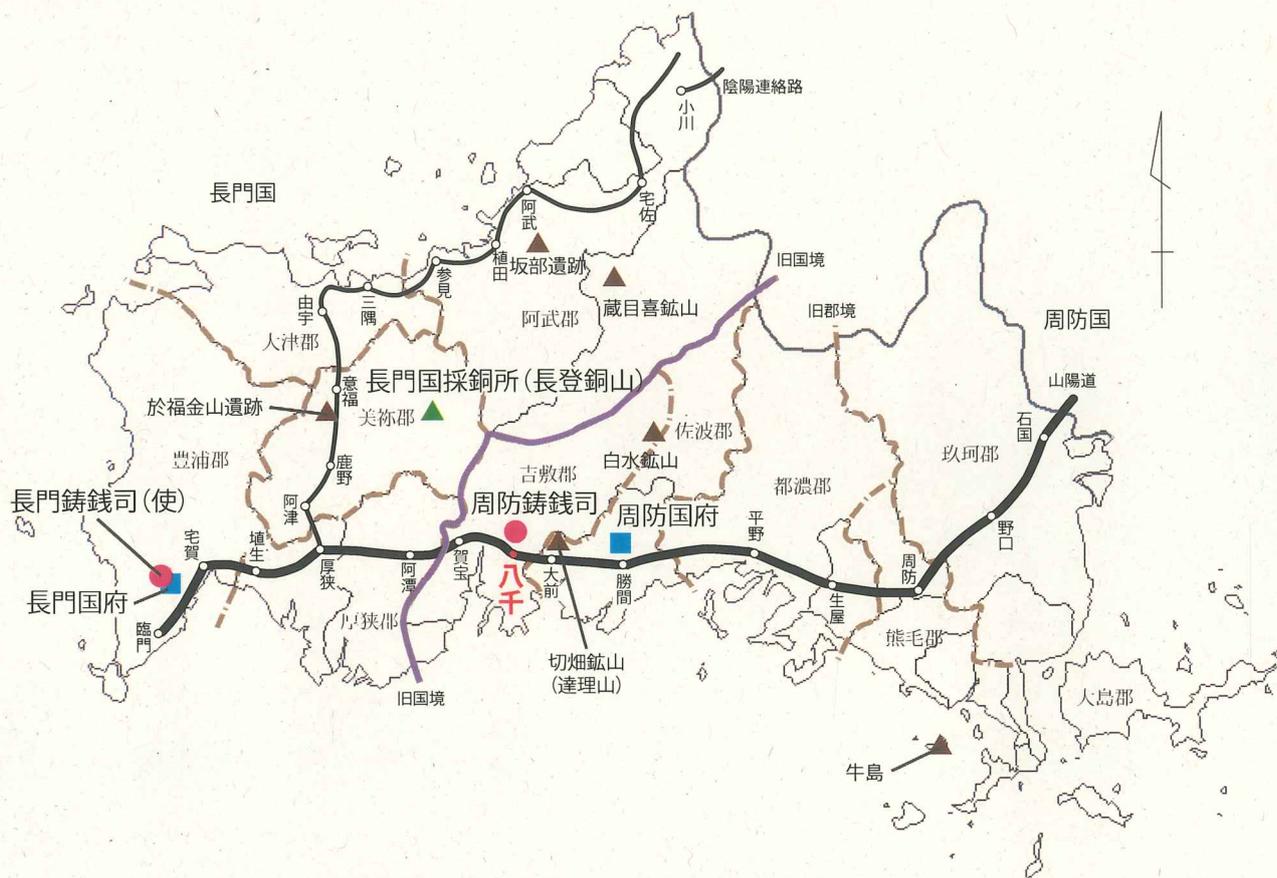
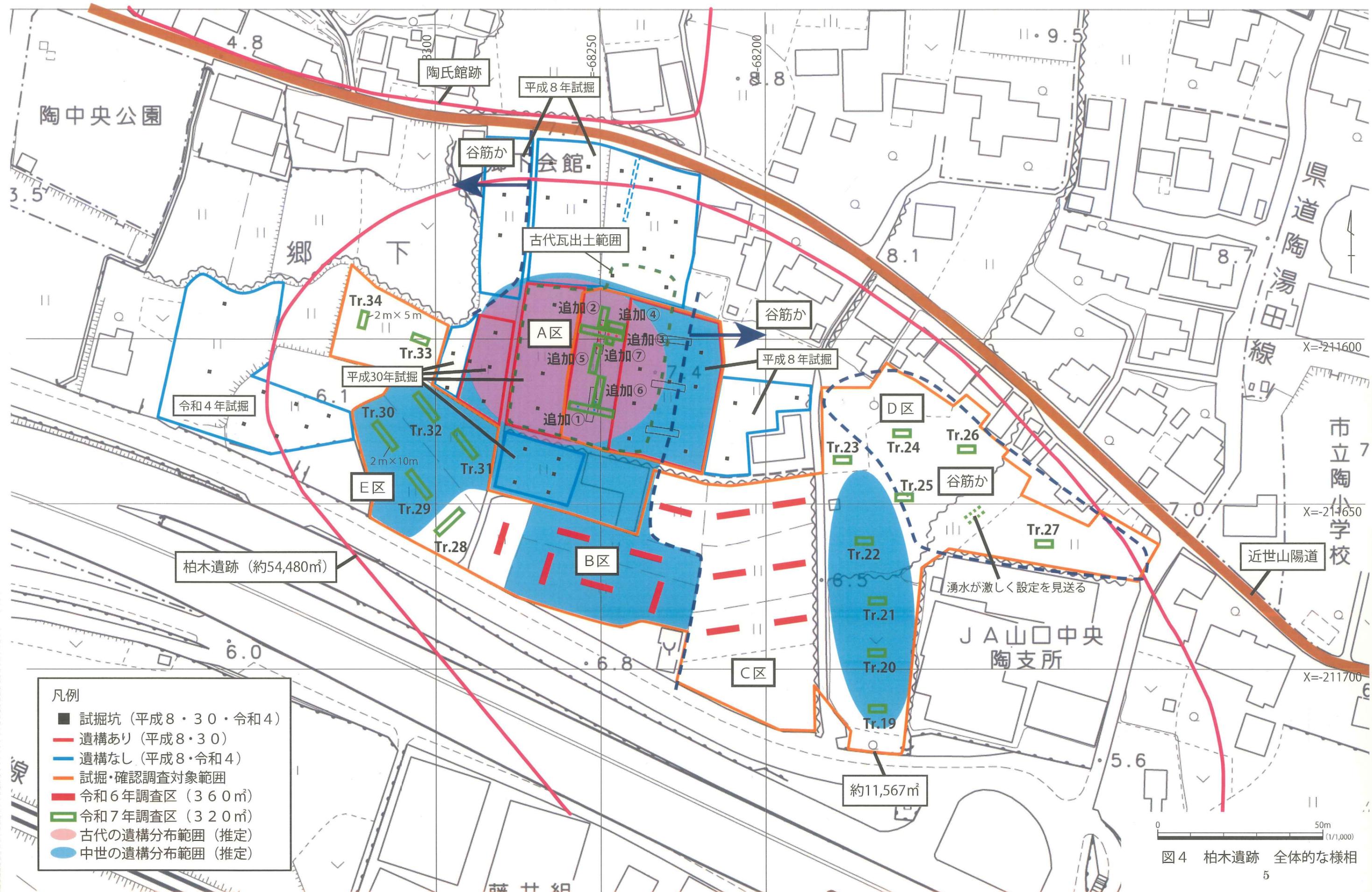
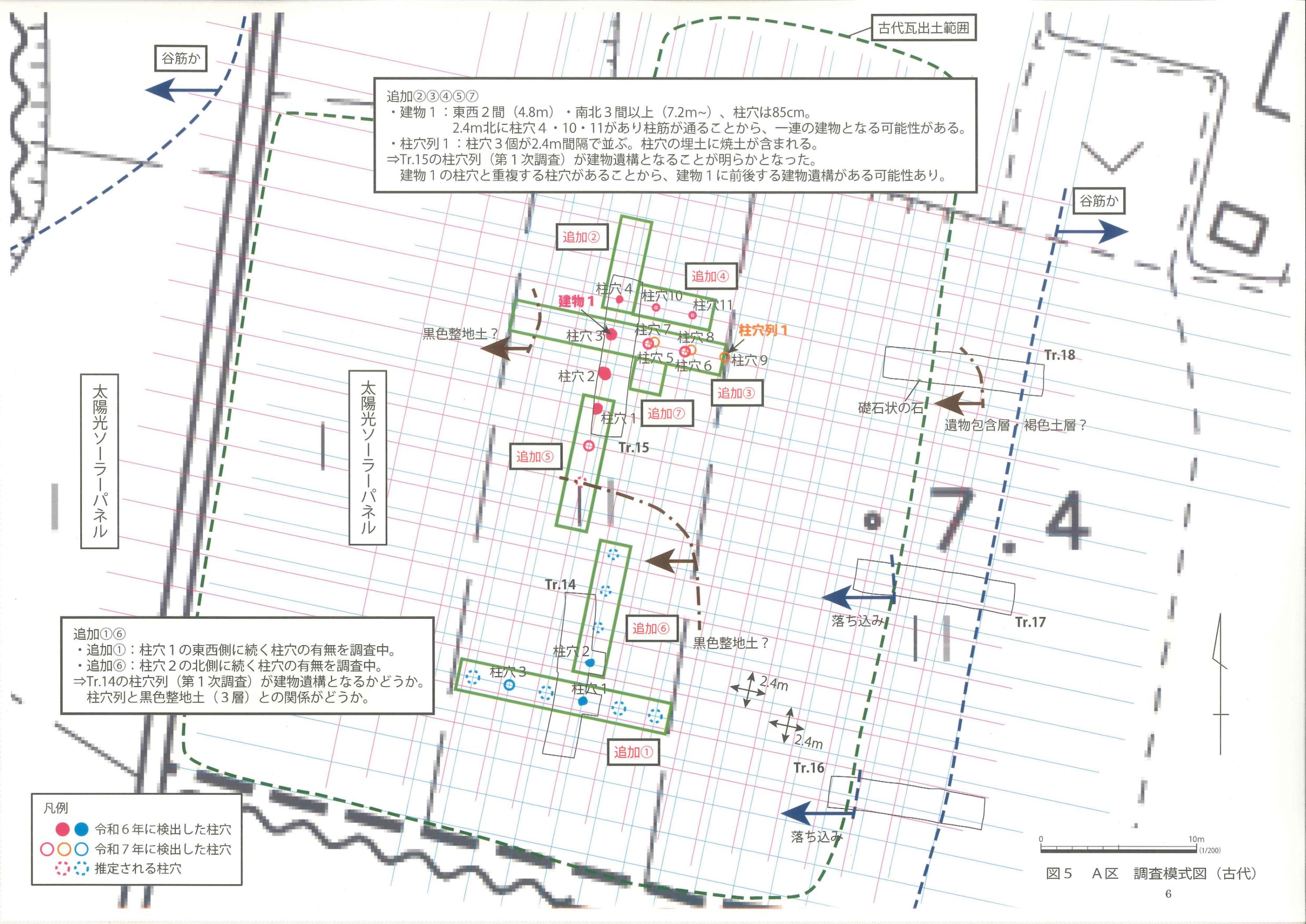


図2 古代の主要な官衙・道路・鉱山



- 凡例
- 試掘坑 (平成8・30・令和4)
  - 遺構あり (平成8・30)
  - 遺構なし (平成8・令和4)
  - 試掘・確認調査対象範囲
  - 令和6年調査区 (360㎡)
  - 令和7年調査区 (320㎡)
  - 古代の遺構分布範囲 (推定)
  - 中世の遺構分布範囲 (推定)

図4 柏木遺跡 全体的な様相



追加②③④⑤⑦

- ・建物1：東西2間（4.8m）・南北3間以上（7.2m~）、柱穴は85cm。2.4m北に柱穴4・10・11があり柱筋が通ることから、一連の建物となる可能性がある。
- ・柱穴列1：柱穴3個が2.4m間隔で並ぶ。柱穴の埋土に焼土が含まれる。

⇒Tr.15の柱穴列（第1次調査）が建物遺構となることが明らかとなった。  
建物1の柱穴と重複する柱穴があることから、建物1に前後する建物遺構がある可能性あり。

追加①⑥

- ・追加①：柱穴1の東西側に続く柱穴の有無を調査中。
- ・追加⑥：柱穴2の北側に続く柱穴の有無を調査中。

⇒Tr.14の柱穴列（第1次調査）が建物遺構となるかどうか。  
柱穴列と黑色整地土（3層）との関係がどうか。

凡例

- 令和6年に検出した柱穴
- 令和7年に検出した柱穴
- ⊙ 推定される柱穴

0 10m (1/200)

図5 A区 調査模式図（古代）